

平成26年度第3回「市長とランチでトーク」

- 開催日 平成26年10月30日（木） 12:00～13:00
- 内容 市役所3階第2応接室にて市長と懇談
- 出席者 〈参加者〉 宇都宮市文化財ボランティア協議会 4名
〈市側〉 市長

- 主な内容（抜粋）

《行政とボランティアの連携等について》

市長： 城址公園で皆さんの活動している姿を拝見しています。いつも素晴らしい活動をしていただけて感謝しています。宇都宮市には素晴らしい文化財や歴史がたくさんありますが、市民の方はまだまだ文化財について知らない人が多いのではと感じています。

参加者： 知らない方が多いというより、「あなたたちの解説を聞かなくても自分は知っている」と主張する方が多いと感じています。

参加者： 若い方や学生などは、例えば自治会の活動について、興味はあるけど活動内容はよくわからない、地域にある施設なども存在は知っているけど詳しくは知らないようです。興味はある、と言っています。

市長： 何かきっかけを作ってあげないと、参加するのがなかなか難しいかもしれません。

参加者： 過日行われた「宇都宮城址まつり」の際、イベント来場者のために一日無料バス（きぶな）が運行されていましたが、バスの運転手その日だけ「無料バス」であることを知らなかったようで、東京から来た来場者が、「二人分で300円です」とバスの運転手に言われていました。

そのお客さんは、二荒山神社や松が峰教会、旧篠原家住宅などを見学し、とても感激したとおっしゃっていましたが、イベントがある時、運営に関係する人すべてに情報が行き届いていないのが残念に感じました。

参加者： 今年は、城址まつりと伝統文化フェスティバルを一緒に実施したことは非常に良かったと思います。天気もよく来場者も多かったのです。来年以降も是非同じような形で実施して欲しいと思います。

市長： 城址まつりと伝統文化フェスティバルは、相乗効果もかなりありますから、来年以降も是非一緒にやれたらいいと感じています。別々に実施していたときは、

それぞれ参加した時にもったいないと感じていました。行列ももっとやってほしいという声もありますので、多くの人に参加できる仕組みを構築したいです。

参加者： 私は、市文化課と市公園管理課の両方の部署に関係するボランティアに携わっていますが、横の連携を図るのは難しいと感じています。1つの例ですが、過日、城址公園の清明館前にある大きな「ジャヤナギ」が環境省の巨木の指定となり、立派な表示板が設置されていました。設置されたことはたまたま通りかかって知りましたが、なんらかの形で私たちに知らせていただくと来場者にPRできるので、是非お願いしたいと思います。

また、私たちが「ものしり館」で勤務している際、来場者の方に、イベントの申込みのことなどいろいろ聞かれることがあります。どこでどのようなイベントが行われるのかすべてはわかりませんので、ここに聞けばわかる、ということがわかるように私たちにお知らせしていただけるとありがたいです。

参加者： 市文化課関係のボランティアは人数が多く、年配者が多いですが、私たちがこれまで活動が続けてこられたのは、市文化課のスタッフが素晴らしいからです。いくらボランティアといっても、ある程度メリットがないと続かないと感じます。市民の会に、若い学生さんに参加していただき、積極的に活動してくれそうでしたが、いつのまにか来なくなってしまいました。ボランティアですから、基本的には自分で手を上げた人が活動するわけですが、自分のためになるというメリットもないとやめてしまう、そういう傾向があると感じています。

参加者： 施設などのハード面とあわせて、ソフト面の充実が必要と感じます。私は宇都宮にずっと住んでいますので、城址公園に対する思い入れも強いですが、イベントの際などに、城址公園の芝生の部分に車が乗り入れているのを見ますと、せっかく綺麗に整備されているのに残念で仕方がないです。そういうことをしないように、市民に知ってもらうこと、お金をかけずに公園や文化財を大切にするという意識の啓発も重要だと思います。

《宇都宮のまちづくりについて》

参加者： 大震災のあと、他県の人から、家を建てるのに宇都宮市のどのあたりがいいか、ということ聞かれることが多かったです。宇都宮市は安全なまち、という意識があるようです。デマンドバスも素晴らしいと思います。地域の人たちも喜んでいきます。

市長： 宇都宮市は、日照時間が長く、災害が少ないまちです。地域内交通は、市の外周部については来年度にはすべての地区に導入される予定です。あとは、市街地、中心地区をどのようにカバーするかが課題です。ゆくゆくはLRTも含めて、バスや地域内交通などをすべて一枚のICカードで乗れるようにしたいと考えています。そのカードには、利用者に応じた割引が自動で計算できるような仕組みな

どを、民間事業者と連携しながら構築したいと考えています。

懇談の様子

